

～幼保小の子どもの学びと育ちをつなぐ～

# 架け橋通信



令和5年度 第1号  
(令和5年6月発行)

京都市教育委員会 学校指導課  
幼保小の架け橋プログラム担当

TEL:075-222-3746

## 幼保小の架け橋プログラムとは

「幼保小の架け橋プログラム」は、小1プロブレムのように移行期における課題のみに焦点を当てるのではなく、架け橋期（5歳児から小学校1年生の2年間）が子どもたちの学びや生活の基盤を育む重要な時期であることを幼保小関係者が共通認識し、子どもたちの学びと生活を接続していくことを目指すカリキュラムを双方が協力しながら構築していく全ての営みです。

文部科学省では、令和4年度から3か年程度を念頭に、全国的な架け橋期の教育の充実とともに、モデル地域における実践を並行して集中的に推進していくこととしています。京都市は、教育委員会と子ども若者はぐくみ局との連携のもと、特徴の異なる3小学校区を研究指定し、近隣の民間・公立園等の就学前施設と小学校で研究ブロック（御所南小学校・中京もえぎ幼稚園・ひまわり幼稚園・おいけあした保育園、下京雅小学校・楊梅幼稚園・本願寺中央幼稚園・知真保育園・光林保育園・ゆりかごWECせいせん保育園、竹田小学校・竹田幼稚園・改進黨保育所）を構成し、それぞれの実態に応じた架け橋期のカリキュラムの開発や実践等に取り組んでいます。

### 【京都市の目指す方向性】

- 京都市では、小学校と就学前施設が、連携・接続の窓口を明確化して、幼保小の連携・接続を推進していきたいと考えています。
- 自校・園所の公開授業や公開保育など、教員・保育者が子どもの育ちを中心にした話し合いを通して相互理解を深め、連携・接続を実践し、架け橋期の教育の充実を図ることを目指しています。



## 架け橋プログラム 3研究ブロックの取組紹介

### 御所南小学校ブロック

#### 交流活動「御苑で会おう」

1年生と就学前施設の5歳児が初夏の京都御苑で交流しました。小学生2名・園児1名の小グループで追いかけてこや仲よし遊びをしました。始めは緊張していましたが、遊び出すと互いを思う様子も見られ、最後には「また会おうね」と手を振り合っていました。

初めての交流活動の様子から教師が学び合い、御所南小ブロックの「架け橋期のカリキュラム」の検証や改善を進めているところです。



### 下京雅小学校ブロック

#### スタートカリキュラムの工夫

1年生の教室前のエントランスには、楊梅幼稚園と同様に遊具で自由に遊んだり、友達と関わったりできる環境が整えられていました。

登校（先生が教室で待ってくれる）→持ち物の始末をする→主体的に遊ぶという一連の流れは、幼保でも経験した生活の仕方です。生活の仕方がわかり、少しでも友達と関わりがもてるのがこの時期に大切にしたい“安心”につながる大きな要素です。



### 竹田小学校ブロック

#### 教科とつながる交流活動

1年生の図画工作科「すなやつちとなかよし」において、1年生と幼保の子どもたちが一緒に砂遊びをすることで、刺激し合い、イメージを広げていました。幼稚園の砂場の用具（環境構成）や一人一人の子どもの様子に合わせて子どもと共に遊ぶ幼保の先生の存在も子どもの意欲を引き出します。手や体全体の感覚を働かせ、様々に楽しみ、互いに刺激し合い主体的に取り組むなど互恵性のある交流でした。



## ○実践研究校の紹介

京都市では、架け橋プログラムを推進するために昨年度から3つの研究ブロックを指定し、地域や子ども、保護者の実態に沿った「共通の視点」を導き出し、架け橋期のカリキュラム作成に取り組んでいます。今年度からは、3つの研究ブロックに加え、新たに全市的に実践のすそ野を広げ、幼児期の教育と小学校教育との相互理解と架け橋期の教育の充実を図るために、下記の11校を実践研究校として指定し、地域の私立幼稚園や民間保育園にも参画いただき、幼保小の連携・接続の取組を推進しています。

### 《実践研究校》

- ・乾隆小学校
- ・翔鸞小学校
- ・朱雀第一小学校
- ・明德小学校
- ・陵ヶ岡小学校
- ・西野小学校
- ・嵐山東小学校
- ・醍醐西小学校
- ・伏見板橋小学校
- ・向島秀蓮小中学校
- ・久我の杜小学校



## れっつ ちゃれんじ!!

### これからできる 架け橋プロジェクト

架け橋プロジェクトを進めていくためには、互いの保育・授業を知ることが大切です。子どもたちの育ちと学びを共有し、互いのよさを学び合い保育改善・授業改善に活かしましょう。幼保小の連携・接続は、今からでも間に合います。できることから始めてはいかがですか。

#### ○公開保育・公開授業の実施

参観日や校内研究、夏季保育や預かり保育などの機会を活用して、幼保小の保育・授業を互いに参観してはいかがでしょうか。

#### ○授業づくりを幼保の先生と一緒に

2学期以降に交流授業を計画している小学校が多いと思います。計画段階から幼保の先生のアドバイスをもらおうと、保育・授業のねらいや子どもたちの支援の仕方など、新たな気付きにつながり、今までとは違う授業になるのではないのでしょうか。

#### ○夏季合同研修会

幼保小が一堂に集まり、互いの保育・教育について語り合うだけでも一歩前進します。



## ○5/19 幼小接続講座の報告

これまで、市立小学校・総合支援学校・市立幼稚園の教職員を対象にしてきた幼小接続講座。今回は、市内の就学前施設の教職員の方にも参加を募ったところ、オンラインではありましたが130名を超える参加がありました。架け橋期において大切にしたいことについての講義と、「架け橋プログラム」の研究ブロック校から、具体的な取組についての実践発表がありました。その後の質疑応答の時間には、幼保小それぞれの立場からチャットでたくさんの質問が寄せられました。子ども一人一人のよりよい育ちのために幼保小の参加者が、それぞれに新たな気付きと意欲を得られたように思います。次回の幼小接続講座は、令和6年2月9日（金）です。ぜひご参加ください！



### こどもみらい館共同機構研修会のご案内

7/28（金）午後3時～ 於：京都市総合教育センター  
内容：架け橋プログラムについての講義とグループ討議  
対象：私立・市立・国立の就学前施設保育者と小学校教員

## コラム

### なかにしサンの 幼分補給

一年生四月の授業を見せてもらいました。ある女の子の姿に目が留まりました。先生が指示したわけでもない数図ブロックが机の上に。その時、ホワイトボードに貼ってある写真が歪んでいたのですが、しばらくして見ると、数図ブロックで四隅が貼られて真っすぐの行為を「余計なことをする子」と見るのか「自分の考えで気持ち良くするために行動した子」と見るのか…。悩みどころです。



事後研修のまとめで「自律は他者との関係の中で次第に育まれる」「先生に信頼してもらえるからこそ力が出せる」「このスタートの四月『指示・命令で動く子どもにする』のか『人との信頼関係の中で自己を発揮する子どもを育むのか』の分かれ道」と有識者の先生に教えてもらいました。因みに、先生は「ありがとう」と言って数図ブロックを彼女に返してくださいました。彼女の行動の意味が認められて良かった！



中西 昌子（なかにし しょうこ）

京都市教育委員会 学校指導課 参与、市立小学校教諭、幼稚園教諭・教頭、竹田幼稚園長、市教委首席指導主事を経て、平成三十年から現職。